

DNMT1 Antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 30.09.2022

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 DNMT1 Antibody
製品コード C15310111

1.2 物質または混合物の関連する特定された使用法

関連性がある特定された用途 診断または治療での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急連絡先

| 名称 | 道路名 | 郵便番号/街 | 電話番号 | メール |
|--------------|------------------|-----------|-----------------|-----------------------|
| 株式会社ダイアジェノード | 富山県富山市荒川1丁目1番25号 | 〒930-0982 | +81 76-482-3110 | info.jp@diagenode.com |

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

重要性がない

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当 (混合物)

3.2 混合物

混合物の明細

この製品は、SPF条件で成長したウサギから採取した未精製の抗血清です。0.05%アジ化ナトリウムを含む防腐剤として。

アジ化ナトリウム、CAS No 26628-22-8、濃度<=0; 1%。

DNMT1 Antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 30.09.2022

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

被災者から目を離さない。被災者を危険区域から移動させ。被災者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者 の診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者 の診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性症状および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NOx)

5.3 消火方法

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消火活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

DNMT1 Antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 30.09.2022

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること: おがくず, 珪藻土, 砂, 万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他のセクションへの参照

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触危険物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

安全取扱注意事項

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.1.1 取扱：技術的対策

一般的な安全対策。

7.1.2 取扱：局所排気・全体換気

よく換気された場所で使用すること。局所及び全体換気を使用すること。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：

着霜

7.3 輸送容器の適合性

他の容器に移し替えないこと。

7.4 特定の最終用途

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露防止

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

DNMT1 Antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 30.09.2022

個人保護装置 (個人的保護措置)

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用.

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用. EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である. 使用前に密封性/不浸透性を確認すること. 手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること. 特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する.

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること. 予防用の皮膚保護 (バリアクリーム/軟膏) を推奨する. 取扱後は手をよく洗うこと.

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること.

環境ばく露防止

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること. 排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと.

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 物理的及び化学的性質に関する情報

| | |
|---------------|--------|
| 物理状態 | 液体 |
| 色 | 橙黄色 |
| 臭い | 無臭 |
| 融点/凝固点 | 測定できない |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | 測定できない |
| 可燃性 | 可燃性でない |
| 爆発下限界及び爆発上限界 | 測定できない |
| 引火点 | 測定できない |
| 自然発火点 | 測定できない |
| 分解温度 | データがない |
| pH (値) | 測定できない |
| 動粘性率 | 測定できない |
| 溶解度 | 測定できない |

分配係数

| | |
|------------------------|--------------|
| n-オクタノール/水分分配係数 (log値) | この情報は、入手できない |
|------------------------|--------------|

| | |
|-----|--------|
| 蒸気圧 | 測定できない |
|-----|--------|

DNMT1 Antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 30.09.2022

比重

| | |
|--------|---------------|
| 密度 | 測定できない |
| 相対ガス密度 | 当該特性に関する情報がない |

| | |
|------|----------|
| 粒子特性 | 非該当 (液体) |
| 粒子特性 | 情報なし |

9.2 その他の情報

| | |
|-------------------|-----------------------------------|
| 物理的危険性クラスに関連するデータ | GHSに従った危険有害性クラス (物理化学的危険): 非該当 |
| 他の安全特性 | 追加情報がない |

第 10 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参照。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 危険有害反応可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 混触禁止物質

追加情報がない。

10.6 危険有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第 11 節：有害性情報

11.1 毒性影響の情報

混合物そのものについて試験データなし。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として区分に該当しない。

皮膚腐食性／刺激性

皮膚腐食性/刺激性として区分に該当しない。

DNMT1 Antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 30.09.2022

- 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性
眼の重篤な損傷性または眼刺激性として区分に該当しない。
- 呼吸器感作性または皮膚感作性
呼吸器または皮膚感作性として区分に該当しない。
- 生殖細胞変異原性
生殖細胞変異原性として区分に該当しない。
- 発がん性
発がん性として区分に該当しない。
- 生殖毒性
生殖毒性として区分に該当しない。
- 単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性
特定標的臓器毒性（単回ばく露）として区分に該当しない。
- 反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性
特定標的臓器毒性（反復ばく露）として区分に該当しない。
- 誤えん有害性
誤えん有害性として区分に該当しない。

第 1 2 節：環境影響情報

- 12.1 生態毒性**
水生環境有害性として分類されない。
- 12.2 残留性及び分解性**
データなし。
- 12.3 生体蓄積性**
データなし。
- 12.4 土壤中の移動性**
データなし。
- 12.5 PBT と vPvB の評価の結果**
データなし。
- 12.6 オゾン層への有害性** データがない
- 12.6 endocrine disrupting properties**
当該特性に関する情報がない。
- 12.7 他の有害影響**

第 1 3 節：廃棄上の注意

- 13.1 廃棄物処理方法**
- 下水処理に関連する情報
排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。都市の水処理施設に排出する前に、通常は中和が必要。
- 包装材／容器の廃棄物処分
完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。
- 廃棄物処理に関するその他の勧告
残余廃棄物: 適切な容器にて処分すること。汚染容器・包装: 適切な容器にて処分すること。

DNMT1 Antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 30.09.2022

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

| | | |
|------|-------------------|---------------------|
| 14.1 | 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 | 国連輸送名 | 非該当 |
| 14.3 | 輸送時の危険有害性クラス | 未特定 |
| 14.4 | 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 | 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 | 使用者のための特別予防措置 | 追加情報がない。 |
| 14.7 | IMO 文書に基づいたばら積み輸送 | 荷はバラ積み輸送に適していない。 |

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

輸送規則の要件は適用されない: UN RTDG

国際海上危険物規定(IMDG) - 追加情報

IMDG協定対象外。

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR) - 追加情報

ICAO-IATA協定対象外。

輸送上の注意

| | |
|---------------|--------|
| - 国内規制：陸上規制情報 | 適用されない |
| - 国内規制：海上規制情報 | 適用されない |
| - 国内規制：航空規制情報 | 適用されない |

第 1 5 節：適用法令

| | | |
|------|------------------------------|------------------------------------|
| 15.1 | 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制 | 追加情報がない。 |
| 15.2 | 化学物質安全性評価 | 当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない。 |
| 15.3 | 毒物及び劇物取締法 | 適用されない。 |
| 15.4 | 化学物質管理促進法 | 適用されない。 |
| 15.5 | 労働安全衛生法 | 適用されない。 |

DNMT1 Antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 30.09.2022

第16節：その他の情報

略語と頭字語

| 略 | 使用した略語の説明 |
|----------|--------------------------------------|
| DGR | 危険物規則書 (IATA/DGR参照) |
| GHS | 国連によって制定された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」 |
| IATA | 国際航空運送協会 |
| IATA/DGR | 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR) |
| ICAO | 国際民間航空機関 |
| IMDG | 国際海上危険物規則 |
| PBT | 難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質 |
| UN RTDG | 国連・危険物の輸送に関する勧告 |
| vPvB | 極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質 |

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 [JISZ7252]. GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規定(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

免責

この情報は、私たちの知識の現状に基づいています。このSDSはコンパイル済みであり、この製品のみを対象としています。